

資料編

目次

1	地域福祉の拠点施設「コミュニティ(防災)センター」一覧	72
2	地区懇談会からの意見等	73
3	市民アンケート調査からの現状と課題	83
4	新・草の根事業の実施状況	98
5	酒田市地域福祉計画策定に関する懇話会委員名簿	101
6	酒田市地域福祉計画策定に関する会議の開催状況	101
7	酒田市地域福祉活動計画策定委員名簿	102
8	酒田市地域福祉活動計画策定委員会の開催状況	102

1. 地域の拠点施設「コミュニティ(防災)センター」一覧

平成27年12月25日現在

施設名称	所在地	電話番号
東禅寺コミュニティ防災センター	みずほ二丁目8番地の7	23-7481
宮野浦学区コミュニティ防災センター	宮野浦二丁目3番3号	31-2286
若浜学区コミュニティ防災センター	若浜町1番48号	26-9060
富士見学区コミュニティ防災センター	曙町二丁目68番地の3	22-4845
浜田学区コミュニティ防災センター	浜田一丁目10番3号	22-8411
泉学区コミュニティ防災センター	ゆたか二丁目2番地の11	34-0899
松陵学区コミュニティ防災センター	光ヶ丘三丁目1番1号	33-9100
港南コミュニティ防災センター	入船町3番15号	22-4473
琢成学区コミュニティ防災センター	北新町一丁目1番60号	26-7715
西荒瀬コミュニティ防災センター	宮海字新林660番地	34-3001
新堀コミュニティ防災センター	木川字アラコウヤ34番地	93-2001
広野コミュニティセンター	広野字上通249番地	92-3001
浜中コミュニティセンター	浜中字上村386番地の11	92-3004
黒森コミュニティセンター	黒森字草刈谷地57番地の2	92-2255
十坂コミュニティセンター	十里塚字村東山112番地の4	31-3094
東平田コミュニティ防災センター	生石字登路田8番地の1	94-2151
中平田コミュニティセンター	熊手島字中福島66番地	22-3001
北平田コミュニティセンター	漆曾根字千刈13番地	25-2101
上田コミュニティ防災センター	上野曾根字上中割49番地	25-2201
本楯コミュニティセンター	本楯字新田目87番地の1	28-3202
南遊佐コミュニティセンター	宮内字小楯62番地の1	28-2708
飛島コミュニティセンター	飛島字中村甲283番地	95-2001
観音寺コミュニティセンター	観音寺字寺ノ下41番地	64-2327
一條コミュニティセンター	市条字村ノ前25番地の3	64-2823
大沢コミュニティセンター	大蔵字ニタ子213番地	64-2824
日向コミュニティセンター	上黒川字家ノ東19番地の2	64-4913
南部コミュニティセンター	地見興屋字前割9番地の4	62-2942
山寺コミュニティセンター	山寺字見初沢165番地	62-2934
松嶺コミュニティセンター	字山田20番地の1	61-4365
内郷コミュニティセンター	相沢字鶴牧56番地	62-2933
田沢コミュニティセンター	田沢字道ノ外105番地	54-2542
東陽コミュニティセンター	北俣字仁助新田31番地の1	54-2292
郡鏡・山谷コミュニティセンター	郡山字上台134番地の1	52-2821
南平田コミュニティセンター	飛鳥字契約場80番地	52-3770
砂越・砂越緑町コミュニティセンター	砂越字楯之内60番地の1	52-3519

2. 地区懇談会からの意見等 (主なもの)

(1) 認知症、徘徊への不安について

- 近所で見守りをしているが、認知症が進行すると、対応の仕方が難しい。どこまで踏み込んでよいか悩む。高齢者に振り回されることが多い。
- はっきりとした認知症ではなく、あいまいな認知症疾患の方への対応。見た目には判断できない。
- 見守りシステムについて。徘徊したときに探し出すことができる方法はないか。自分自身の居場所を知らせる取り組みができないだろうか。
- 認知症の登録等、知らない人が多い。自治会長もわからないので、もっとわかりやすくすることも含めたPRが必要では。
- 認知症の情報が自治会には入らない。自治会長も見回っているが、学区でどうしたらいいか、自治会あつての市でもあるので、市の情報を共有できないか。
- 認知症なのかどうか？物忘れなのか？判断は難しい。
- 見守りネットワークは重要な個人情報なので、きめ細やかなネットワークを進めていくためにも家族の協力が大切。
- 認知症は誰もがなる可能性がある。はずかしいことではないという意識改革が必要。
- 家庭内では、認知症高齢者を隠す傾向があり、また単身の認知症高齢者も潜在的に多数いると思われるため、地区としては、その発見に努める必要がある。
- 徘徊は家族の負担が多くなる。恥ずかしい、見せたくないという意識がはたらく。
- 認知症者との接し方について、不安がある人が多いのではないかと。共通認識を持てるよう教育や研修を。
- 徘徊のエリアは広がっている傾向。死亡事故に繋がらないようチームを作ってある程度範囲を決めて、見守る必要がある。
- 「さかた声かけ隊」の登録により、「どちらまで行くのですか」とさり気ない声掛けがしやすくなった。徘徊者は一目わからない。
- 家で囲わず、オープンする勇気を持ってほしい。認知症の方もサロンに誘う。
- 服薬では治らないなど認知症についての知識を広める必要がある。
- 認知症を抱える家族は、知らせたくないという意識がある。
- 認知症の単身高齢者の家事や交通事故が心配。また、別居家族の理解が不足している。
- 個人情報など、様々な問題があり、「あなたの家に認知症の人がいるか、徘徊しそうな人がいるか」と聞きまわることできない。隣の人に聞くにも「家族に聞いてくれ」など話しづらいところがある。認知症、徘徊の情報をどのように知ればいいのか。
- 徘徊の最終手段は警察に届け見つけて家に帰すが、家が留守だと、ただ帰すだけで、また同じことを繰り返すだけ。
- 認知症、徘徊の対応について、いろいろな方法があるが、どのように対処するかがこれからの課題。
- 認知症高齢者は年々増加している。介護者への支援が必要である。
- 徘徊高齢者についても大きな問題であり、警察、包括支援センター等との連携が重要である。
- 何人かはいるようだが実態がわからない。噂話程度で身内は隠したがる。
- 情報は掴みたい。ある程度情報を共有(公開)して対策し、助け合いたい。

- 認知症(認知は病気。恥ずかしくない。)に対する広報を徹底してほしい。
- 認知症に対して周囲に知られることを家族が恥ずかしがるという傾向がある。
- 介護している方が息抜きできるような研修会(情報交換会)などを開催してほしい。鶴岡市では積極的に開催していて、そちらに参加しているという方もいる。
- 認知症をテーマにした講演会があっても高齢者は出席するが、若い人は来ない。若い頃から参加して理解し、早期発見できるようにであれば、ひどくならずすむのではないか。
- 徘徊はあるが、散歩と思いがつかないのでは。声がけはしてもらいたい。声がけ運動は大事だ。
- 認知症の高齢者による隣近所同士で盗った盗られたとのトラブルや人の土地に勝手に侵入する行為が見られる。
- 家族や関係者はいろいろな事業を通して知識があるが、関係ない人に知識を普及させる必要があるのではないか。そうすれば将来の不安も解消されるはず。
- 福祉は「ゆりかごから墓場まで」と言うが、行政・事業者・地域はそれぞれ何をするのか。例えば声がけをするとどういうことに効果があるのかなどを理解できない。説明してほしい。
- 当自治会で認知症の方がお金を盗まれた。と言い出して、犯人扱いされた友人がづらい立場になった事件があった。対応策があれば知りたい。
- 認知症の人が増えている。予防ということで講習会等の取り組みが必要と考える。
- 徘徊する住民はいないが、グループホームと多機能施設が町内に在る。この施設の入居者が徘徊する心配がある。

(2) 移動や日常生活での困り事について

- 除雪の協力員を探すことが難しい。玄関先だけとか、どうにか頼みこんでいる状態。
- 年金などの収入で生活にも格差がある。通院にタクシーを利用する人もいれば、るんるんバスを利用している人もいる。それすら利用できない人もいる。
- るんるんバスの乗降場所、時間、路線図が分からない。分かりにくい。
- 宅配サービスは需要がある。高齢者も単に物品等購入するだけでなく、来宅した際、話を聞いてほしいがっている一面もある。
- 高齢者が宅配サービスの情報をどのように掴むか。民生委員、福祉協力員が、訪問による情報提供。コンビニからの情報提供もある。
- 雪等で、中学生協力員をやめた経緯がある。(事故があるから。勉強が本分。など)
- 注文～配達でなく、やはり商品(実物)を見て買いたいという声もある。
- 宅配等をたのむ人とたのまない人の違いは「お金」にある。高齢者でお金に不安がある人が多いようだ。
- 自分で運転できるうちはいいが、免許を返し運転できなくなると、歩いて買い物などに行くことになる。公的バス(るんるんバス)を利用するにも本数が少なすぎる。都会のようにとまでいかななくても、もっと増やしてほしい。
- 近所にスーパーも無いし、坂道が多いため移動するのに車が無いと大変。移動手段が無いことで、引きこもる高齢者が増える。高齢者の交通事故防止のためにも、赤字になるのは当たり前だと思うが、そういう問題を公的機関で何とかしてもらいたい。
- 大きなスーパーが出来たことにより、近所の八百屋など買い物できる店が廃業した。車で買い物にいくしかない状況で高齢者には住みにくい環境になっている。
- ゴミを窓から投げ捨てる。ゴミを溜め込む精神障がい者の事例があり、地区でゴミ捨てるの

支援を行っている。

- 通院・買い物に100円で利用できるるんるんバスなどを運行できないか
- 高齢者は体力がないので、除雪が大変である。
- ロコモティブシンドロームもある。移動に対する援助があれば、外へ行く人も増える。
- 単身高齢者の除雪について要求が次第にエスカレートして幅広く除雪して欲しいと言われる場合がある。
- 自分の地区の場合はトラクターを運転して除雪している人に頼んで玄関から1m幅くらいで除雪してもらっている。
- 時間があわないという理由からかデマンドタクシーの利用は少ない。
- るんるんバスも時間がかかるため利用者が少なく廃止になってしまった。交通弱者に対して利用しやすく便利に提供できるサービスが必要か。
- 高齢化もあり、ATMの操作方法がわからない方が多い。
- 地域の医療機関で送迎してくれているところもある。
- 買い物も大変だとは言うが何とか依頼しているので日常生活は成り立っている。
- やさしいまちづくり除雪援助事業の利用はしているが、もう少し広くヘルパーの車やデイスサービスの送迎の車が入られるくらい除雪してほしいといわれることもある。
- 買い物ができない人が増えていて、生協などの宅配を使う方法以外に、地域で支え合っていく、琢成学区のような方法を全学区に広げるにはどうしたら良いか。
- 買い物には車のない人を誘って乗せていったりする。
- デマンドタクシー使い勝手悪い（止まる場所が決まっているので）。地域で運転できる人、家族がいるのであまり利用しない。
- 行き先がデマンドタクシーは決まっておき、買い物や医者にも行けない。
- デマンドタクシーの降車場所が目的地だとありがたい。相当の距離を歩かなければならならず、るんるんバスの停留所より少ない。
- 降雪期の移動は課題が大きい。
- 移動販売車を活用しているので助かる。
- 医療面で往診もお願いできているが、地域格差がないだろうか。
- デマンドタクシーの登録等使いにくいと聞く。（電話予約など）
- デマンドタクシーを使用する際、乗り降りする場所が限定。もっと融通を利かして欲しい。
（足が不自由な人は降り場からまた、タクシーを使って目的地に行く）
- デマンドタクシーは拠点停留所があるため通院に利用するには便利だが、買い物したい人には歩く距離が長く大変。食材宅配に頼んだり、近所の人をお願いしたりしている。
- 近所の人をお願いするとお礼をしないといけないと考えてしまう。
- 買い物、医者への通院に困っている。
- 書類が読めない。会話ができない。相談事があった場合は、誰でも良いというわけにいかない。信用できる相談相手が少ない。
- 一人暮らしの方への支援が、もっとほしい。
- 地域に店が無くなった。

(3) 緊急時、災害時の不安について

- ガスコンロや給湯器の消し忘れなど、ひとり暮らし高齢者は火元が心配。
- 地域に住んでいる人の実態がつかめないため、緊急時速やかに動けるか不安。
- 避難する時の交通手段。南三陸町へ視察に行った際、自治会長より避難は自動車で行うべしと助言をいただいた。緊急時避難場所の駐車スペースの確保、障がい者への優遇措置など検討してほしい。
- 災害があったとき、要援護者などはどこに行ったらいいのかわからない。
- 災害時の要援護者の把握について、福祉課と市社協から別々に情報を求められる。要援護者台帳の内容が細かく詳しすぎる。
- 救急安心カードの対象者の把握などこれだけでは不安がある。
- 災害時訓練では、障がい者から、迷惑が掛かるのではと断られる。
- 一人暮らしで足が悪いと、外に出なくなり、付き合いも無くなっていく。
- 災害時要援護者と見守りネットワーク対象者について、台帳を一緒にできたが、そこまでするなら、リストを一つにできないか。一つで見られるものがほしい。
- 支援する人の高齢化。若い人がいない。60歳を過ぎても仕事をしている人も多く、願いもしづらくなっている。
- 支援者も自分の身の安全を確保することが必要で、災害時等には声かけするしかない場合もある。
- 実際災害時には、寝たきりの高齢者は運搬するのに2～3人必要。
- 災害時の支援者として登録、要支援者には必ず行く（助けに行く）とは言えないし、言っていない状況。
- 救急安心カードのことを知らない消防隊員が意外という。
- 実際、災害時にどう動けるのか不安。
- 災害時要援護者の登録があまりにも少ない。本人同意が必要で、本人が嫌う。
- 災害時要援護者避難支援事業の支援者の登録について自治会長とともに、隣近所に説明しているが、「あそこの家はいやだ」と言われる。（親戚でもいやだと言われる。）最後は民生委員や自治会長がなることになる。
- 防災訓練への参加の呼びかけに行くと嫌がられる。東日本大震災の津波のように、想定外はない。全員に関わる。
- 本人が支援が必要だと声をだしてくれず、こちらからは踏み込めないのが難しい。
- 救急安心カード等は、誰がみてもこの人は緊急時に援助が必要ではないかと思われる時、その人に発行できるようにならないか。
- 災害時にはどうしても自分の身の安全が優先となるので、他の人の避難にまで手が回す余裕があるか疑問である。
- 緊急時、災害時における要援護者の把握を進めているがその情報をどう共有化していくかが課題である。個人情報なので難しい面がある。
- 90歳代の高齢者を介護しているこどもも70歳代と高齢者と言う世帯があり、要援護者にあげていく必要があるという現状。
- 若い人と同居でも日中は独居と言う高齢者の場合も見守っていく必要がある。
- 個人情報の件も本人のために必要最低限欲しい。
- 救急安心カードがあって緊急時に早く対応出来て良かったと聞いている。
- 災害時は隣同士で見回りができればいいが、ほとんどが一人暮らしになればそうはいかない。

- 要援護者を助ける支援者も年々高齢化している。若い方は日中不在であるので、何かあった時不安。
- 心身障がい児を持つ家族で、高齢化を迎え、親亡き後の子がどう地域で生活していくのか心配している人がある。公的にも着目してもらいたい。
- 自治会で防災訓練行っている。住民の災害への関心が高まっている。
- 防災訓練を行うと、災害対応への漏れが見えてくる。継続が重要である。
- 消防団は日中仕事で不在である。災害時の活動をどうするか知りたい。
- 消防団員の成り手がいない。困っている。
- 個人情報保護法で、住民の家族状況が把握できない。市で情報提供できないものなのか。
- 自治会長は、就職・入所等の移動の把握・整理で苦労している。
- 当自治会で困っているのは、アパートの住民が把握できないことである。
- 救急安心カードで対応ができていたのでありがたい。
- 防災訓練は実施しているが、高齢者の救護をどうするか、(元気な人は避難できる) 緊急時どう助けるか課題がある。
- 災害時の不安はあるため、大げさな訓練というものではなく、地域で何か集まり(草刈り等)がある際に「たんか」作りを実施した。

(4) 地域の新たな困り事について

- ひきこもりなどの情報はほとんど入ってこない。自治会単位でどの程度把握すべきか、把握できるのか。
- 空き家対策。野良犬、野良猫、不審者の出入りを防ぎたい。
- 高齢者の生活活動拠点として居場所づくり事業があり、補助金は魅力的。しかし、1度だけの助成ではなく、継続した資金援助を求めたい。居場所の維持管理などが大変。
- 居場所づくりの話は以前から出ていたが、進まなかった。
- 自治会の中に、立派な空き家がある。こうした物件を居場所として提供できれば、と考えるが1つの自治会だけで運営するのは大変だ。
- 空き家を利用しなくても、1人暮らし高齢者宅へ集まる方法もある。一人での食事がむなしなので、大勢での食事を好まれる。
- 民生委員のなり手がいない。民生委員が1人で自治会への会議出席などをこなしているのが大変である。
- 引きこもりなど、知ってしまうと手が出せない。自治会長としてどこまで把握しなければならないのか、個人情報の取り扱いで悩んでしまう。
- アパート住民の自治会費は理解してもらおう努力が必要だ。
- 自治会役員の成り手がいない。となり組長の成り手がいないところでは、あみだくじで決める所もあると聞く。当番制で行っている町もある。
- 教員や市役所公務員、退職者の参加が少ない、付き合いも悪い。
- 引きこもりも多くなっている。声かけしても家から出てくれるまでが課題。
- 隣人の安否に関して、同居家族が、家庭内の問題として干渉を拒否する傾向がある。特に、転入世帯や古くからの住民でも代替わりしている世帯に多い。
- 施設入所者の死亡を自治会が知らない場合が多い。家族からの連絡もない。
- 害獣(ハクビシン)問題、天井裏の腐食、糞等の悪臭、農作物の食いあらし等の被害。生命力が強い。
- お年寄りのひきこもりは増えているようだ。年をとると頑固になり、話を聞いてくれない。

訪問しても出てこない。

- ごみ問題。大きなゴミを地域に置くところがない。カラスの問題。
- 高齢者のごみ出しのルール違反。(悪意ではないと思われるが)
- 空き家が多くなってきて、その管理に困っている。老朽化等の空き家は市役所で対応できないか。周りに迷惑をかける。取り壊しするにもお金がかかる。出て行った子どもたちにも思い出があり、簡単に壊せないということもあるようだ。市で積極的に連絡できないか。自治会等だけでは所有者との話し合いがなかなか進まないのが原状。
- 地域の行事に参加し、あいさつを交わすことで地域の人々の顔を知ることが大事だが、同じ人ばかりが参加するような感じ。
- 男性独身者(30~40歳代)が多い。婚活の場などチャンスが少ない。
- 結婚したくない女性も増えているのも確か。
- 夏祭りなど町内会の行事にも参加しない。
- 引きこもり、ニートはいる。市や社協に相談中である。
- 生涯現役だから、生活保護受給者はいない。年をとっても、少し仕事があればいい。
- オレオレ詐欺がある。庄内弁でなかったのが詐欺だと分かった。
- ふとんなど電話でセールスがお年寄りにかかってくる。
- ニートの人がいる。行事に参加してもらえれば、コミュニケーションができる。
- 家からすぐに車に乗って買い物や仕事に行くため隣近所のことが良くわからない。
- 単身高齢者世帯の敷地が広く、敷地や畑の草刈ができないし、周辺からも苦情が出ている。誰がやるのか。
- 草取りが出来ない家が多くなってきた。
- 空き家やそれに伴う放置車両が増えている。
- 高齢者福祉だけでなく潜在している障がい者福祉も充実させたい。
- 自殺が減らないのも気になる。
- 引きこもりや生活困窮者は把握することが難しい。
- 2025年問題で多くの都会の高齢者が、地方に来るが本当なのか。また、介護保険制度の改正で要支援1・2の人が介護サービスを外れるとも聞いたので不安を感じる。
- 小学校の統合によって、旧校舎をどう活用するか、草刈りなどを地域でどうしていくのか課題となる。地区としてもこれから検討して要望をしていかないといけない。
- サロンなどに参加しない人をどうしたら集められるのか困っている。
- 隣家が空き家になっていて、雑草が伸びているので持ち主に断りを入れた上で草刈りをしている。今は元気で草刈りをしてきているが、そのうちできなくなったらどうなるかと心配。
- 地区内に買い物できるお店は1軒しかない。農協が撤退するとなるとお金もおろせなくなる。5年後・10年後どうなっていくのだろうか不安。民間事業者の宅配事業ですべて対応できるのかも心配。タブレットを高齢者に配布して市街地のお店で対応するとか事業を考えられないか。高齢者にとっては切ない環境である。
- 当自治会では、空地対策として当自治会で売却に取り組んでいる。当然、持主の了承は得ている。

(5) 地域福祉（活動）の担い手、育成について

- 高齢者同士で支援をしている。中学生、高校生などの若手から支援の担い手となってもらいたい。
- 子守り目的で親の住んでいる場所の近くへ移り住む、若い世代が多くなってきた。地域活動への参加を促したい。
- 役員をしたくないので、自治会には入らないと言う人もいる。
- 活動の担い手は行政でも担う必要があるのでは。
- 高齢者しかいない状況では、地域での支え合いはむずかしい。夫婦であれば共倒れしてしまう。
- 若い世代は仕事が忙しくて、共働き。近所付き合いも悪い傾向がある。
- 小、中学校との交流を深めて、夏祭りなど地域の行事にも、中学生や高校生が企画参加できるよう、地域活動につなげていけたらと思う。
- 今から将来の地区住民を育てていくことが大切。
- 学校でも地域との連携をもっと教育に取り入れてほしい。
- 子ども達が外で遊ばなくなった。地域全体で子ども達を見守っていく関わりが大切。
- 将来の地域福祉の担い手である子供たちに対する福祉ボランティア教育は、学校教育の中で取り組みがなされているが、地域としては、子供たちへの直接の働きかけよりも、その親に対する教育の取り組みが重要である。
- 若い人が自治会活動に参加しない。関心を持たない。伝えたいが、繋げない。
- 高校生ボランティアは、学校主導。卒業等学校を離れると継続が難しい。
- 認知症についての知識、「さかた声かけ隊」登録を中高生に広めたい。PRを。
- シニアボランティアが増えていない。
- 認知症サポーター養成講座は、学区社協や自治会長会議でも具体的な話しは出ていない。学区単位での具体的な活動をすべだ。資金面でのバックアップも必要。
- 認知症サポーター養成講座は、小学校や地域の企業でもしてはどうか。
- 認知症の家族などを介護した人の体験話を聞いて学ぶことも必要なのではないか。
- 自分たちの仕事がいそがしい。共働きの世代が多い。お母さん方も60歳以上でも働いている人も多い。なかなか仕事をしている人にはお願いしにくい。
- 公務員（市役所等）の退職者にも現状を知ってもらい、協力してほしい。
- 担い手づくりに地域での声かけも大切では。
- 若い人を担い手として育成するのは難しい。中年の人も仕事をしているので忙しい。
- 地域の行事に小中学校へ（手伝いなどの）案内を出しても、いろんな行事と重なり参加者が減っているなか、逆に生徒のほうから地域行事に手伝いたいという声もある（ボランティアクラブ）。中高生を巻き込んだ地域行事していけるようにし、そのような場を見せることで担い手を育成していくしかない。
- 福祉の必要性が増大しているなか、福祉協力員の増員が必要ではないか。また同時に、支援員のサポーターの新設を検討すべきと思われる。福祉隣組の増員がより現実的ではないか。
- 担い手は、一言でいえば高齢化している。
- 仕事を持つ人が自治会役員しても、日ごろの活動には支障。
- せっかく大学を誘致したのに学生は何処に住んでいるのか。教授のセミナーもその後に繋がらない。せっかくの企画を繋いでほしい。
- 除雪・買い物・通院介助など有料軽作業の実施を考えているが、担い手(受け手)も養成しな

ければならない。

- 仮に外から来ても仕事がない現状での活動は難しい。
- なかなか難しいと思われるが、現在、地域でなされている保育園での世代間の交流や、今回のように地域福祉について考える機会を捉える等、時宜を得て様々な世代の人達から福祉を考えてもらうことにより担い手が育成されることを期待したい。
- 認知症講座への参加者は少ないと思われる。特に若い人を集めていくことが難しい。
- 老人クラブも会長のなり手がなくなった地区もある。
- 公務員退職した方からは積極的に協力してもらいたい。
- 若い人が育たない。育てることが大切。つないでいかなければならない。
- 若い人の声を反映することも必要。うまく譲れているところは組織が伸びている。
- 「担い手育成⇔稼げるところまで稼ぐ」の関係は、難しい問題だ。
- 介護予防講座などは、いろんところで類似したものを実施しており、もっと整理してもいいのではないか。
- 小学校なんかでも認知症の勉強をしているようだ。
- 担い手を育成するためにもボランティア活動を充実させたい。
- 高齢者のサロンでそれぞれががんばっている。
- 保護者がボランティアをしている姿をこどもに見せていく事が大切。
- リーダー格で引っ張ってくれる人の存在が大きい。
- 近年の年金支給が遅れていまだに働いている方がいる。担い手になってくれる方を探すのが大変。
- 講座開いても担い手になる方が参加してくれない。
- 制度をしらない人に「担い手」は難しい。
- 担い手を気長に育成するためには、事業の周知・PRが必要。市広報にワンポイントとして掲載するなどしたらいいのではないか。
- 福祉ポイント制にして元気なときに積み立てたポイントで優先的にサービスを使うことができればいいのではないかと思う。
- （地域づくりに関して）意識の高い人はすでに自治会活動をしている。それ以外の人には目的付けしないとむずかしい。
- 校舎の跡地利用のときに地域の若い人の力を生かせないか。店舗や交流サロンなどできれば地域が寂れることがないのではないか。
- 除雪での中高生の活動支援はないのか。
- 福祉協力員は凄いいいと思う。民生委員は忙しい。隣組の中で声掛けてもらうのはありがたい制度。意識高揚に援助しながらやっていけばありがたいと感じる。
- 福祉の担い手・なり手がいない。魅力あるようにしてほしい。
- 働きかけがあれば担っても良いという人もいる。育成と教育ときっかけ作りが大事と思う。
- 若い人はボランティア等への意識が高い。
- 最近の教育を受けている学生は、イベント（地域行事）への参加意識が高い。
- 高校生・大学生は、単位を取るため参加している。義務的な参加ではあるが、仕組みを作れば住民の参加率も上がると思う。
- 地域の役員等も難しい（人材が少ない）。
- 出席者はいつも同じメンバー。
- 多くのことをやりすぎない、きれいにやれる戦力は地域には無い。

(6) 無駄・いらないと思われるサービスや事業について

- 似たような事業が多く、判別しにくい。
- 地域あんしん事業（相談事業）不要。
- 給食(配食)ボランティアは、民間業者を活用するなど、別の形態でどうか。支援者(ボランティア・作る人)が、生き生きする面もある。作る人がいるうちは継続。いなくなる前に次の手を考えたらどうか。
- 認知症サポーター研修は活用（実働）があるのか疑問に思う。間口を広く求めているが主旨がわからない。必要だからやっている事業だと思うが、見直しが必要ではないか。
- サービスがよくわからない。
- 毎月 25 日の困りごと相談(草の根・あんしん相談)は、開店休業状態。年 1～2 名程度。コミセン開催では、他の利用者の目に付き、勇気がいるので、誰も来ない。
- 介護予防教室等を開催しているので市民全体が長寿となってきたと思われる。だからこそいらないと思われるサービスはない。
- 福祉関係の出前講座もあるので様々な制度、サービス等を研修して利用していきたい。
- 県でも市でも同じような事業をやっているものがある。「ねらい」が違うというのは分かるし、活発に行っていて、どちらにも参加できるのは確かによいのだが、受け皿は 1 つ(参加者は 1 人)である。同じようなものは 1 つにならないか。
- 同じような事業で「ねらい」が違うのは分かるが、参加者が足りず動員はいかがなものか。
- 特にないが、知らないものも多い。
- 地域高齢者支え合い事業の周知が不十分。聞いたことがない。市民にも見えるよう宣伝してもらいたい。
- お話のように色々な事業があり、実施する人は大変である。
- 具体的にどの事業が無駄かと問われても直ぐには思い当たらないが、見直しをしてほしい。

(7) 自由意見・その他

- 若い人たちを巻き込む努力が必要。
- 自治会の中では、相撲大会や神社清掃など、若い人たちが集まってくる活動もある。若い人たちとの酒飲みや会話は楽しい。
- 地域のニーズはさまざまである。一つひとつ答えたいと思うが、課題も多い。地域全体で解決できるようなまちづくりを行いたい。
- 懇談会委員を選んでアンケート配布、回収するのは非常に負担。次回以降は郵送でお願いしたい。
- 若浜学区は介護保険の認定率が低い。住民同士の支え合いが根付いているからではないか。
- 計画の前回アンケートの結果は、前回計画にどの様に反映されたのか説明いただきたい。
- 計画を作ったら、市民に周知徹底すべき。
- 計画で活動するといっても、表現が硬く、市民が理解できない。何をすべきか見えない。住民がどのように関わるのか、自治会、自治会連絡協議会、学区社協との関わりあいも含め、目に見えるような伝達方法を考えてもらいたい。
- 皆に説明しやすい計画、実行しやすい計画を作ってもらいたい。
- 認知症や要介護高齢者を在宅介護している家族が意見交換できるような取り組みは無いのか。

- 高齢者向けの施策は多いが、幼児対策が手薄い。制度・援助がほしい。
- 赤い羽根共同募金の羽根の配布方法等は、自治会長として困っている。班・組毎の仕分けがたいへん。せっかく分けたと思ったら、すぐに廃棄されているのを目にする。羽根を付ける人もいない。
- 飛島で酒田のサービス（鍼灸等）は利用できるものが少ない。特殊事情であるので、島で使えるサービスを拡充してほしい。
- 近所づきあいはあいさつからはじまると思われるが、近所づきあいがうまくいっていることが大切ではないか。そのような関係を築ければ援助が必要な人も把握できるようになるのではないか。
- 介護予防にも力を。
- 少子化問題の課はどこか？高齢化対策は力を入れているが、地域福祉を考える上で、少子化問題も大切ではないか。
- 高齢者が幼児を見る制度、子供たちの面倒を見るサークルがあってもよいと思う。セキュリティなど実際しようとするとう問題もあると思う。日頃、高齢者が自由にこれで面倒を見れる仕組み、居場所がほしい。
- 子育て支援は拡充してほしい。①働いて子育てできるような仕組み（女性の負担軽減）。②子育て医療証は高校まで拡大。そのためには、何かをなくさなくてはならないと思う。
- 仕事を取り上げられると認知症が進むという例もある。孫が幼稚園から小学校へ入学したら手がかからなくなり、認知症が進んだようだ。
- 市の話をもっと出してもらいたい。認知症、災害対策、その他いろいろ。市では何をやっているのかを地区で説明してもらい、結果が良くなったが、どうでしょうかと話を出してもらわないと進まないのではないか。
- 高齢者を施設にあずけると、年金だけで足りない。家族の負担が大きくなり大変だ。
- 老人と呼ばれるのが、嫌だという人もいる。
- 各地域で、老人クラブをまとめるリーダーがいない。
- 老人クラブで認知症の勉強会をした。他地区と一緒にやるのは嫌だという風潮があるため、自分たちの公会堂でしている。そのようなことを自治会長がやってもらいたいという意見があるが、自治会長ではなく、課題はリーダー育成。
- 平均寿命が延びない。効果が出るような健康事業を期待したい。
- 若い世代の人口が減らないように、働ける場所や生活環境を整えて欲しい。
- 少子化対策や産み育てやすい環境づくりが大切。
- 地域福祉計画は、高齢者・要介護者のみならず子どもも含めた幅の広い計画にしてほしい。
- 中高年のひきこもりが多くなっている。ひきこもり対策にも触れてもらいたい。
- 会議も色々あってわかりにくい。会議に出ても何を話してよいのか迷ってしまう。
- 認知症や徘徊について、地域でも対応できる仕組みづくりが必要である。
- 自治会長の負担が大きい。これ以上業務を増やさないでほしい。
- 居場所づくり事業について、説明を受けた時点で締め切り日が過ぎていた。たった2万円の補助に、応募多数で抽選をしている。ニーズがあるので増やすべきである。
- 事業への参加を押しつけない。
- 福祉は助けあいだが、プライバシーもあって中に入れないものがある。
- 一人ひとりが主人公として動いていくべき。

3. 市民アンケート調査からの現状と課題

第3期地域福祉計画策定にあたっての基礎資料とするため、各学区・地区社会福祉協議会を単位として全市域の市民2,000人を対象に、地域福祉に関する意識及び実態の調査を実施しました。

市民アンケート調査票の回収数は1,907で、回収率は95.4%です。なお、表中「前回(%)」は第2期(平成22年度)調査によるものです。

問	あなたの性別はどちらですか。		
	項目	計(人)	割合(%)
	1) 男性	957	50.2%
	2) 女性	939	49.2%
	無回答	11	0.6%

問	あなたの年齢をお答えください。		
	項目	計(人)	割合(%)
	1) 19歳以下	6	0.3%
	2) 20歳代	35	1.8%
	3) 30歳代	96	5.0%
	4) 40歳代	139	7.3%
	5) 50歳代	219	11.5%
	6) 60歳代	721	37.8%
	7) 70歳以上	683	35.8%
	無回答	8	0.4%

問	あなたの家族はどれにあてはまりますか。			
	項目	計(人)	割合(%)	前回(%)
	1) 単身	169	8.9%	8.0%
	2) 夫婦のみ	518	27.2%	23.9%
	3) 二世世代家族(親と子)	666	34.9%	38.6%
	4) 三世世代家族(親と子と孫)	485	25.4%	24.1%
	5) その他	57	3.0%	3.3%
	無回答	12	0.6%	2.0%

問	あなたの職業は何ですか。		
	項目	計(人)	割合(%)
	1) 自営業(農業を含む)	294	15.4%
	2) 会社員・公務員・団体職員	329	17.3%
	3) 会社・団体等の法人の役員	55	2.9%

	4) 臨時職員・パート・アルバイト等	205	10.7%
	5) 学生	4	0.2%
	6) 無職	971	50.9%
	7) その他	34	1.8%
	無回答	15	0.8%

問	あなたはご自分の健康状態をどのように思っていますか。		
	項目	計 (人)	割合 (%)
	1) 非常に健康だと思う	93	4.9%
	2) 健康な方だと思う	1251	65.6%
	3) あまり健康ではない	357	18.7%
	4) 健康ではない	99	5.2%
	5) どちらともいえない	99	5.2%
	無回答	8	0.4%

(1) ご近所づきあいについては、一定程度はありますが、その内容は希薄といえます。

問	あなたとご近所の人との関係はどれに近いですか。			
	項目	計 (人)	割合 (%)	前回 (%)
	1) 何か困ったときに助け合う親しい人がいる	661	34.6%	29.4%
	2) お互いに訪問しあう程度の人がある	236	12.4%	13.3%
	3) 立ち話や世間話をする程度の人がある	654	34.2%	31.0%
	4) 挨拶をする程度の人がある	270	14.2%	15.5%
	5) 民生委員や自治会役員など訪問してくれる人がいる	33	1.8%	6.4%
	6) ほとんど近所付き合いはない	25	1.3%	1.4%
	7) その他	7	0.4%	0.7%
無回答	21	1.1%	2.6%	

(2) 約9割の人が地域の行事、地域活動への参加経験があります。

問	あなたは地域の行事や地域活動（コミュニティ振興会、自治会、老人クラブ等の行事）等への参加経験がありますか。		
	項目	計 (人)	割合 (%)
	1) 参加したことがある	1691	88.9%
	2) 参加したことはない	203	10.6%
	無回答	13	0.7%

(3) 地域の行事等の活動内容は、自治会行事への参加が多くを占めています。

問	(2)で「1)参加したことがある」と回答した方にお聞きします。それはどのような活動ですか。			
	項目(複数回答)	計(人)	割合(%)	前回(%)
	1)自治会の行事	1,470	77.1%	75.9%
	2)婦人会活動	405	21.2%	18.8%
	3)老人クラブ活動	457	24.0%	22.8%
	4)祭り	902	47.3%	40.2%
	5)子ども会活動	399	21.0%	19.4%
	6)ボランティア活動	523	27.4%	25.1%
	7)PTA活動	270	14.2%	12.7%
	8)スポーツ団体・クラブ活動	345	18.1%	17.1%
	9)各種サークル活動	272	14.3%	10.7%
	10)冠婚葬祭の手伝い	40	7.1%	4.7%
	11)防犯・防災活動	200	30.6%	25.1%
	12)交通安全活動	146	18.7%	16.3%
	13)教育・子育てに関する行事	57	11.2%	9.4%
	14)趣味・娯楽の集まり	299	25.8%	20.9%
15)その他	16	1.6%	1.1%	

(4) 地域の行事、地域活動へ参加したことがない理由は、時間的余裕がないことやきっかけがないことと回答した方が、過半数を占めています。

問	(2)で「2)参加したことはない」と回答した方にお聞きします。参加したことがないのはなぜですか。		
	項目	計(人)	割合(%)
	1)関心がないから	38	18.7%
	2)時間的に余裕がないから	69	34.0%
	3)参加するきっかけがないから	45	22.2%
	4)一緒に参加する仲間がないから	10	4.9%
	5)高齢や健康上の理由等から	19	9.4%
	6)家族等の理解や協力が得られないから	1	0.5%
	7)その他	13	6.4%
無回答	8	3.9%	

(5) 地域社会への貢献は、行事等の各種活動としての認識が高く、要援護者への直接的な活動は、認識として低いものになっています。

問	あなたが「地域社会(ご近所を含む、学区・地区や自治会の範囲)」に貢献できることは何だと思えますか。			
	項目(複数回答)	計(人)	割合(%)	前回(%)
	1)見守り・声かけ運動	1,016	15.6%	17.4%
2)環境美化活動	783	12.0%	12.0%	

3) 災害など緊急時の救助活動	647	9.9%	10.5%
4) 地域のボランティア活動	580	8.9%	11.1%
5) 地域行事への参加	1,111	17.1%	18.6%
6) 子育て支援（登下校の見守り、子ども会活動等）	333	5.1%	調査項目なし
7) コミュニティ振興会、自治会、老人クラブ等の運営	669	10.3%	10.7%
8) 家事援助	143	2.2%	2.0%
9) 寄付や募金	320	4.9%	3.3%
10) 話し相手	349	5.4%	5.1%
11) 福祉への関心を持つ	427	6.6%	7.0%
12) 特にない・わからない	118	1.8%	2.0%
13) その他	16	0.2%	0.3%

(6) 福祉サービスや介護保険サービス等の利用に関する情報は、約半数の方が市広報や市社協会報から入手しています。

問	あなたは福祉サービスや介護保険サービス等の利用に関する情報をどこから入手していますか。		
	項目（複数回答）	計（人）	割合（%）
	1) 市役所	575	30.2%
	2) 社会福祉協議会	437	22.9%
	3) 地域包括支援センター	537	28.2%
	4) 老人ホームやデイサービス、保育所等の社会福祉施設	246	12.9%
	5) 民生委員・児童委員	336	17.6%
	6) ご近所さんや自治会長などの地域の方	538	28.2%
	7) 病院や診療所	213	11.2%
	8) 友人や知人	442	23.2%
	9) 職場等の同僚	131	6.9%
	10) インターネット	150	7.9%
	11) 市広報・市社協会報	943	49.4%
12) その他	47	2.5%	

(7) 在宅福祉サービスは、定期的な見守りや緊急時の通報システム、気軽に相談できる体制などへの要望が高くなっています。

問	住み慣れた地域（家）で安心して生活を送るために必要と思われることをお答えください。		
	項目（複数回答）	計（人）	割合（%）
	前回（%）		
1) 家族や地域の方等による定期的な見守り	1,032	11.1%	11.0%
2) IT技術、通信技術を活用した見守り（安否確認システム）	257	2.8%	3.0%

3) 緊急時の通報システム	927	10.0%	10.5%
4) 日常生活（買い物やごみ出し、除雪など）に関する公的な手助け	724	7.8%	7.4%
5) 日常生活（買い物やごみ捨て、除雪など）に関する地域の皆さんによる助け合い	843	9.1%	8.0%
6) 弁当等の配食サービスや生鮮食料品の宅配サービスの充実・支援	398	4.3%	5.0%
7) 交通弱者の移動支援（使いやすい公共交通の充実または地域ごとの移動ワゴン車の運行など）	585	6.3%	6.3%
8) 地域での朝市等（生鮮食料品販売）の開催	132	1.4%	1.6%
9) 住宅のバリアフリー化に対する支援（手すりの設置やトイレの洋式便器への交換など）	487	5.2%	5.2%
10) 寝たきりなどの介護状態にならないための介護予防の支援（高齢者の交流を促進する講座や軽スポーツ大会、閉じこもり防止対策など）	866	9.3%	9.3%
11) 掃除、洗濯、料理などの家事援助	444	4.8%	3.9%
12) 着替え、排せつ、入浴、食事などの身体介助（ホームヘルプサービス）	380	4.1%	3.2%
13) 訪問診療、訪問看護、リハビリテーション	474	5.1%	5.3%
14) 在宅で介護する人に対する支援	742	8.0%	9.2%
15) 気軽に福祉について相談できる体制の整備、わかりやすい情報の提供	946	10.2%	10.8%
16) その他	43	0.5%	0.3%

(8) 福祉サービス利用援助事業内容の周知度は、低いものとなっています。

問	あなたは福祉サービス利用援助事業を知っていますか。		
	項目	計（人）	割合（%）
	1) 事業内容も含めて知っている	457	24.0%
	2) 言葉だけ聞いたことがある（内容は知らない）	943	49.4%
	3) 聞いたこともない	447	23.4%
	無回答	60	3.1%

(9) 成年後見制度の内容は4割の方が知っており、前回に比較し、その周知の割合は高くなっています。

問	あなたは成年後見制度を知っていますか。			
	項目	計（人）	割合（%）	前回（%）
	1) 制度内容も含めて知っている	773	40.5%	32.3%
	2) 言葉だけ聞いたことがある（内容は知らない）	789	41.1%	32.5%

	3) 聞いたこともない	292	15.3%	29.8%
	無回答	53	2.8%	5.4%

(10) 日常生活で困っている方は増加しています。

問	あなたは日常生活を送る上で、現在お困りのことはありますか。			
	項目	計 (人)	割合 (%)	前回 (%)
	1) ある	191	10.0%	7.9%
	2) 特にない	1677	87.9%	88.4%
	無回答	39	2.0%	3.7%

(11) 困り事は、「除雪」、「大掃除」、「大きいものや重いものの買い物」などをあげる方が多くなっています。また、「経済的なこと」で困っている方が多いことがわかりました。

問	(10) で「1) ある」と回答した方にお聞きします。それはどんなことですか。			
	項目 (複数回答)	計 (人)	割合 (%)	前回 (%)
	1) 食事の準備 (調理)	29	6.8%	8.7%
	2) 日常的な掃除	22	5.2%	4.8%
	3) 大掃除 (日常的ではないもの)	40	9.4%	12.2%
	4) 洗濯	4	0.9%	2.1%
	5) 通院や買い物のための外出	23	5.4%	7.8%
	6) 除雪	65	15.2%	17.3%
	7) 大きいものや重いものの買い物	41	9.6%	9.9%
	8) 布団干し	16	3.7%	5.1%
	9) 電球等の交換や暖房器具への灯油入れ(*)	24	5.6%	4.2%
	10) ごみ出し	12	2.8%	2.7%
	11) 預金の出し入れや税金等の支払いの手続き	8	1.9%	6.0%
	12) 市役所等からの書類を読むことや記入すること	21	4.9%	7.5%
	13) 相談相手 (話し相手) がいないこと	14	3.3%	3.6%
	14) 子育て・教育に関すること	19	4.4%	前回項目 なし
	15) 経済的なこと	60	14.4%	前回項目 なし
16) その他	29	6.8%	8.1%	

(12) 将来、除雪や通院や買い物のための外出に不安を感じています。また、経済的な心配もあります。

問	あなたが日常生活を送る上で、将来不安なこと (困りそうなこと) はどんなことですか。		
	項目 (複数回答)	計 (人)	割合 (%)
	1) 食事の準備 (調理)	436	9.2%
	2) 日常的な掃除	207	4.4%

3)大掃除（日常的ではないもの）	378	8.0%
4)洗濯	152	3.2%
5)通院や買い物のための外出	485	10.2%
6)除雪	760	16.1%
7)大きいものや重いものの買い物	417	8.8%
8)布団干し	176	3.7%
9)電球等の交換や暖房器具への灯油入れ	231	4.9%
10)ごみ出し	152	3.2%
11)預金の出し入れや税金等の支払いの手続き	194	4.1%
12)市役所等から書類を読むことや記入すること	252	5.3%
13)相談相手（話し相手）がないこと	108	2.3%
14)子育て・教育に関すること	88	1.9%
15)経済的なこと	575	12.2%
16)その他	106	2.2%

(13) 約3割の方が、歩いて買い物に行くことが困難です。

問	あなたには歩いて行くことができる食料品等の日用品を買い物する場所がありますか。			
	項目	計（人）	割合（%）	前回（%）
	1) ある	1345	70.5%	70.7%
	2) ない	541	28.4%	27.9%
	無回答	21	1.1%	3.1%

(14) 9割以上の方が、自動車を利用して買い物をしています。

問	(13)で「2)ない」と回答した方にお聞きします。それでは買い物に行く交通手段は何ですか。			
	項目	計（人）	割合（%）	前回（%）
	1)自動車（自分で運転）	474	87.6%	86.5%
	2)自動車（同居の家族に乗せてもらう）	29	5.4%	6.0%
	3)自動車（別居の家族に乗せてもらう）	2	0.4%	0.9%
	4)自動車（近所の方や友人に乗せてもらう）	5	0.9%	0.1%
	5)バス	1	0.2%	1.3%
	6)タクシー	2	0.4%	0.6%
	7)自転車・バイク（*）	9	1.7%	2.7%
	8)買い物には行かない（家族や近所の方に必要なものを買ってきてもらう）	8	1.5%	1.3%
	9)買い物には行かない（宅配サービスや移動販売車等の利用）	1	0.2%	前回項目なし
	10)その他	7	1.3%	0.6%
無回答	3	0.6%	0.0%	

(15) 自動車を利用して通院をされている方が増えています。また、バス・タクシーの公共交通機関を利用する方は約4%となっています。

問 あなたが通院するときに使う交通手段は何ですか。				
項目	計(人)	割合(%)	前回(%)	
1) 自動車(自分で運転)	1524	79.9%	71.8%	
2) 自動車(同居の家族にらせてもらう)	118	6.2%	6.5%	
3) 自動車(別居の家族にらせてもらう)	16	0.8%	0.6%	
4) 自動車(近所の方や友人にらせてもらう)	3	0.2%	0.1%	
5) バス	41	2.1%	1.9%	
6) タクシー	41	2.1%	1.4%	
7) 自転車・バイク	53	2.8%	3.2%	
8) 近所の医院に歩いて通院している	31	1.6%	4.0%	
9) 通院はしていない	51	2.7%	5.3%	
10) その他	8	0.4%	0.8%	
無回答	21	1.1%	4.4%	

(16) 福祉乗合バス(るんるんバス)の充実が望まれています。

問 交通手段に関して必要と思われる支援をお答えください。			
項目	計(人)	割合(%)	
1) 福祉乗合バス(るんるんバス)の充実	632	33.1%	
2) 福祉乗合タクシー(デマンドタクシー)の充実	364	19.1%	
3) 病院による通院バスや商店による送迎バスの運行	231	12.1%	
4) 地域ボランティアによる運送	62	3.3%	
5) バス・タクシー料金への助成	406	21.3%	
6) その他	24	1.3%	
無回答	188	9.9%	

(17) 社会福祉協議会の事業では、赤い羽根共同募金、歳末たすけあい募金、新・草の根事業がよく知られています。

問 あなたは社会福祉協議会が実施している各事業についてご存じですか。				
項目(複数回答)	計(人)	割合(%)	前回人数	
1) 新・草の根事業[見守りネットワーク支援事業・合同研修事業・ふれあい給食事業・地域あんしん事業・地域交流サロン事業・介護予防講座事業]	883	10.4%	965	
2) 地域支え合い活動推進事業	403	4.7%	—	
3) 赤い羽根共同募金及び歳末たすけあい募金	1446	17.0%	1089	
4) 福祉サービス利用援助事業(権利擁護事業)	313	3.7%	464	
5) 成年後見事業	440	5.2%	—	
6) 生活自立支援センター事業	336	4.0%	—	
7) 生活福祉資金貸付事業	266	3.1%	311	
8) たすけあい資金貸付事業	182	2.1%	—	

9) 心配ごと相談所	595	7.0%	606
10) ボランティアセンター・公益活動支援センターの運営	280	3.3%	—
11) 被災地支援活動団体への支援	260	3.1%	—
12) 避難者支援	280	3.3%	—
13) 会報ふれあいによる広報活動	609	7.2%	—
14) ホームページ、フェイスブック、ツイッターによる広報活動	97	1.1%	—
15) 日赤事務事業（日本赤十字社山形県支部酒田市地区）	438	5.2%	552
16) 福祉バス・日赤福祉バス運行事業	474	5.6%	636
17) 介護保険事業〔訪問介護事業・通所介護事業・認知症対応型通所介護事業（デイサービスセンターいずみ・デイサービスセンター松山）〕	647	7.6%	609
18) 地域包括支援センターにいだ	277	3.3%	300
19) 各種福祉団体活動支援	237	2.8%	345
20) その他	34	0.4%	23

(18) 社会福祉協議会には、在宅での健やかな生活を支援する活動や地域での支え合いを進める活動が期待されています。

問	あなたは今後、どのようなことを社会福祉協議会に期待していますか。		
	項目（複数回答）	計（人）	割合（%）
	1) 地域での支え合いを進める活動（新・草の根事業、地域支え合い活動支援事業等）	1029	18.4%
	2) 在宅での健やかな生活を支援する活動（介護保険事業、地域包括支援センター等）	1078	19.3%
	3) 生活や福祉に関わる相談活動（心配ごと相談等）	764	13.6%
	4) ボランティアやNPOの皆さんを応援する活動（ボランティアセンター・公益活動支援センターの運営等）	328	5.9%
	5) 福祉情報を皆さんに広く伝える活動（情報提供・広報活動）	685	12.2%
	6) 福祉活動の財源を募集し、福祉活動に助成する活動（赤い羽根共同募金及び歳末たすけあい募金）	371	6.6%
	7) 経済的に生活が苦しい人を支援する活動（生活福祉資金貸付事業、生活困窮者自立支援事業等）	655	11.7%
	8) 判断能力が十分でない方をサポートする活動（福祉サービス利用援助事業、成年後見事業等）	650	11.6%
	9) その他	39	0.7%

(19) 学区・地区社協の活動内容を知っている方は、おおむね3割です。

問	社会福祉協議会では、小地域（おおむね小学校区）単位で住民が中心となり福祉活動に取り組んでいただくため、「学区（地区）社会福祉協議会」（以下「学区・地区社協」といいます）の設置、運営をすすめています。この学区・地区社協があるということをご存じですか。		
	項目	計（人）	割合（％）
	1) 名前も活動の内容もよく知っている	582	30.5%
	2) 名前は聞いたことがあるが、活動の内容はよく知らない	806	42.3%
	3) 名前も活動の内容も知らない	403	21.1%
無回答	116	6.1%	

(20) 学区・地区社協にあつては、見守り活動やそのネットワークづくりへの取り組みが期待されています。

問	学区・地区社協に引き続き取り組んでもらいたい活動、または、新たに取り組んでもらいたい活動は、どのようなものがありますか。	
	項目（複数回答）	計（人）
	1) 見守り活動やそのネットワークづくり	1110
	2) 生活相談の実施	518
	3) 給食（配食・会食）の実施	428
	4) 集会施設等での地域交流	559
	5) 介護予防講座の実施	641
	6) 学校等との世代交流	260
	7) 地域の清掃や美化活動	397
	8) 防災活動	676
	9) 防犯活動	650
	10) 子育て支援活動	438
	11) 新たな支え合い活動	299
	12) 学区・地区の各種活動や催しに関する情報提供	437
13) その他	43	

(21) 民生委員・児童委員の活動は、7割以上の方が「よく知っている」または「だいたい知っている」と回答しています。

問	あなたは「民生委員・児童委員」の活動についてご存じですか。	
	項目	計（人）
	1) よく知っている	481
	2) だいたい知っている	894
	3) 名前は聞いたことがあるが、活動内容は知らない	450
	4) 全く知らない	35
無回答	47	

(22) よく知られている民生委員・児童委員活動は、支援が必要な方への声かけや訪問活動、悩みや心配ごとの相談となっています。

問	(21) で「1) よく知っている」または「2) だいたい知っている」と回答した方にお聞きします。あなたのご存じの民生委員・児童委員の行っている各種活動はどのようなものがありますか。		
	項目 (複数回答)	計 (人)	割合 (%)
	1) 日常生活の悩みや心配ごとの相談	1014	28.9%
	2) 市役所などの福祉サービスに関する情報提供	689	19.6%
	3) 高齢者等で支援が必要な人への声かけや訪問	1180	33.6%
	4) 子どもに関する相談	572	16.3%
	5) その他	39	1.1%
	6) 特にない	20	0.6%

(23) 過半数の方が地区の民生委員・児童委員をよく知っています。

問	あなたはあなたの地区を担当する民生委員・児童委員を知っていますか。		
	項目	計 (人)	割合 (%)
	1) よく知っている	1038	54.4%
	2) 名前だけ知っている	509	26.7%
	3) 知らない	305	16.0%
	無回答	55	2.9%

(24) ボランティア活動等は、半数の方は参加経験があるか、または機会があれば参加したいと思っています。

問	ボランティア活動、NPO 活動、市民活動等に参加したことがありますか。		
	項目	計 (人)	割合 (%)
	1) 活動に参加したことがある (参加している)	714	37.4%
	2) 活動に参加したことがない	858	45.0%
	3) 参加したことがないが、今後機会があれば参加したい	244	12.8%
	4) その他	23	1.2%
	無回答	68	3.6%

(25) 地域でのボランティアは、清掃・美化や地域おこしに関する活動の割合が高くなっています。

問	(24) で「1) 活動に参加したことがある (参加している)」と回答した方にお聞きします。どのような活動に参加しましたか。		
	項目 (複数回答)	計 (人)	割合 (%)
	1) 高齢者支援に関する活動	295	13.3%
	2) 障がい者支援に関する活動	104	4.7%
	3) 子育て支援や母子福祉に関する活動	82	3.7%
	4) 健康づくり・医療に関する活動	158	7.1%
5) 地域の清掃・美化や地域おこしに関する活動	471	21.2%	

6) 防犯・交通安全に関する活動	277	12.4%
7) 消防・防災・災害支援に関する活動	263	11.8%
8) 自然環境保護に関する活動	110	4.9%
9) 公害防止・リサイクルに関する活動	74	3.3%
10) 教育問題・趣味や生涯学習・学術研究に関する活動	88	4.0%
11) 各種スポーツ指導に関する活動	83	3.7%
12) 青少年育成・支援に関する活動	74	3.3%
13) 芸術・文化振興や伝統継承に関する活動	62	2.8%
14) 国際交流・国際協力に関する活動	17	0.8%
15) 消費者問題に関する活動	22	1.0%
16) 人権・女性問題に関する活動	13	0.6%
17) 平和の推進に関する活動	20	0.9%
18) その他	13	0.6%

(26) ボランティア活動などに必要な支援や条件は、広報・情報提供がいちばん大切と考えています。

問	今後、ボランティア活動、NPO 活動、市民活動等に積極的に参加する（または、新たに参加、始める）ために、必要な支援や条件は何ですか。	
	項目（複数回答）	計（人） 割合（%）
	1) 活動に関する広報・情報提供	953 18.2%
	2) 活動に関する相談窓口	329 6.3%
	3) ボランティア講習会や各種研修	480 9.2%
	4) 少数の友人や家族と気軽に参加できる活動の増加	567 10.8%
	5) 時間的に負担の少ない活動の増加	712 13.6%
	6) 体力的に負担の少ない活動の増加	595 11.4%
	7) 自身のスキルアップ（能力向上）につながる活動の増加	308 5.9%
	8) 活動に応じたポイント制（景品やサービス交換）の導入	144 2.8%
	9) 活動に応じた地域通貨（商品券交換や買物券使用）の導入	136 2.6%
	10) 事故に備えた保障体制（保険）	363 6.9%
	11) 活動拠点や活動場所の確保	226 4.3%
	12) 活動に対する財政的な支援（補助や助成）	338 6.5%
	13) 支援や条件が整っても関心が無く、参加しない	39 0.7%
	14) その他	44 0.8%

(27) 酒田市ボランティアセンターと酒田市公益活動支援センターの名前を知っている方は、13%と低い割合になっています。

問	あなたは「酒田市ボランティアセンター」と「酒田市公益活動支援センター」の名前をご存じですか。		
	項目	計（人）	割合（%）
	1) どちらも知っている	247	13.0%
	2) 「酒田市ボランティアセンター」は知っているが、「酒田市公益活動支援センター」は知らない	401	21.0%
	3) 「酒田市公益活動支援センター」は知っているが、「酒田市ボランティアセンター」は知らない	49	2.6%
	4) どちらも知らない	1082	56.7%
	無回答	128	6.7%

(28) ひとり暮らしの方など、急病に備えて何らかの対策をしている方は6割以上います。

問	ご自身がひとり暮らしの方または、離れて暮らすひとり暮らしの家族がいる方にお聞きします。急病などの緊急時に 備えて、どのような対策をしていますか。		
	項目（複数回答）	計（人）	割合（%）
	1) 救急安心カードの所持（ステッカー貼付）	193	28.2%
	2) 緊急通報システムの利用	62	9.1%
	3)（携帯）電話の短縮ダイヤルの設定	144	21.0%
	4) 民間事業者の人感センサー等の設置	12	1.8%
	5) 特に対策はしていない	250	36.5%
6) その他	24	3.5%	

(29) 災害が起きたとき、家族・親戚、近所の人、自治会などごく近所、身近な人を頼りにしています。

問	あなたは災害（地震、水害、土砂災害等）が起きた時、誰を頼りにしますか。		
	項目（複数回答）	計（人）	割合（%）
	1) 家族・親戚	1512	33.0%
	2) 近所の人	1016	22.2%
	3) 友人・知人	391	8.5%
	4) 自治会等（自主防災組織）	770	16.8%
	5) 消防団・水防団	321	7.0%
	6) 民生委員・児童委員	75	1.6%
	7) 行政（市役所、消防署等）	457	10.0%
	8) 社会福祉協議会	29	0.6%
9) その他	11	0.2%	

(30) 地域での災害時の備えは、日頃からのあいさつ、声かけが大切と思っています。

問	あなたの地域で、災害時の備えとして、どのようなことが重要だと思いますか。		
	項目（複数回答）	計（人）	割合（%）
	1) 日頃からのあいさつ、声かけ	1292	27.6%
	2) 防災対策の学習会	489	10.4%
	3) 地域での避難訓練	961	20.5%
	4) 地域の危険箇所の把握	547	11.7%
	5) 自力で避難できない高齢者等の把握	863	18.4%
	6) 地域の情報伝達体制の構築	523	11.2%
	7) その他	12	0.3%

(31) 災害ボランティアセンターの内容の周知度は1割に満たない状況です。

問	あなたは大規模災害が発生した場合、「災害ボランティアセンター」が酒田社会福祉協議会に設置されることを知っていますか。		
	項目	計（人）	割合（%）
	1) よく知っている	172	9.0%
	2) 名前だけ知っている	458	24.0%
	3) 知らない	1187	62.2%
	無回答	90	4.7%

(32) 高齢者の安全で快適なまちづくりを進めるためには、経済的な支援体制の充実、在宅福祉サービスの充実などの要望が高くなっています。また、支えあう仕組みづくり、相談体制の確保などの必要性があげられています。

問	高齢者が支障なく生活できる安全で快適なまちづくりを進めるために必要と思われることをお答えください。		
	項目（複数回答）	計（人）	割合（%）
	1) 高齢者の働く機会の充実	592	8.1%
	2) 経済的に安心できる支援体制の充実	1059	14.4%
	3) 高齢者のボランティア活動の受入体制の充実	396	5.4%
	4) デイサービス、ホームヘルパーなどの在宅福祉サービスの充実	1028	14.0%
	5) 在宅福祉サービスの充実高齢者を支えあう仕組みづくり	907	12.3%
	6) 買い物・通院などの交通手段の確保	822	11.2%
	7) 消費者被害や詐欺への対策の充実	321	4.4%
	8) 知識や経験を生かした生きがいつくりの場の充実	601	8.2%
	9) 高齢者の文化・趣味、スポーツ活動への参加機会の充実	705	9.6%
	10) 日常生活において、困ったときの相談体制の確保	895	12.2%
	11) その他	21	0.3%

(33) 障がい者が安全で快適なまちづくりを進めるためには、医療体制の充実があげられます。

問	障がい者が支障なく生活できる安全で快適なまちづくりを進めるために必要と思われることをお答えください。		
	項目（複数回答）	計（人）	割合（％）
	1) 安心して受けられる医療体制の充実	1369	17.1%
	2) バリアフリーの施設や設備の充実	764	9.5%
	3) バリアフリー施設マップの充実	338	4.2%
	4) 職業訓練や働く機会の充実	661	8.2%
	5) 障がいのある方への理解の促進	998	12.4%
	6) デイサービス、ホームヘルパーなどの在宅福祉サービスの充実	800	10.0%
	7) 地域で障がいの方を支援あう仕組みづくり	656	8.2%
	8) 自分にあった移動手段の確保	552	6.9%
	9) 判断が不十分な方の権利擁護の充実	422	5.3%
	10) 障がい者の文化・趣味、スポーツ活動への参加機会の充実	491	6.0%
	11) 日常生活において、困ったときの相談体制の確保	953	11.9%
	12) その他	16	0.2%

4. 新・草の根事業の実施状況

学区地区 社 協	見守り支援事業									合同研修		
	ネットワーク対象者数			福祉隣組数			福祉協力員数			回 数		
	H24	H25	H26	H24	H25	H26	H24	H25	H26	H24	H25	H26
琢 成	551	532	508	444	344	315	25	24	20	2	2	2
浜 田	273	254	233	204	145	136	31	29	32	4	4	4
若 浜	133	117	120	118	83	81	20	19	19	2	2	2
富士見	95	94	86	85	75	65	11	11	11	2	2	2
亀 城	152	144	128	174	143	137	17	17	17	2	2	7
松 原	82	82	92	60	52	67	17	17	18	2	2	2
港 南	155	150	115	119	92	71	11	11	11	3	2	2
松 陵	131	125	104	129	113	88	15	15	15	2	2	2
泉	30	27	34	31	25	36	10	11	12	2	2	2
宮野浦	92	97	97	102	87	80	14	13	13	2	2	2
飛 島	30	27	27	25	12	10	5	5	6	2	2	2
西荒瀬	17	16	21	14	14	19	15	12	15	2	2	2
新 堀	54	54	56	64	57	59	11	11	11	2	2	2
広 野	24	21	26	32	31	26	8	9	9	2	2	2
浜 中	11	7	6	23	15	13	8	8	8	2	3	2
黒 森	21	21	20	9	10	12	7	7	7	2	2	2
十 坂	49	46	41	37	34	37	10	10	10	2	2	2
東平田	29	92	88	33	52	49	4	4	4	3	3	2
中平田	56	51	51	19	16	16	8	7	9	2	2	2
北平田	33	25	29	33	27	27	4	4	4	2	2	2
上 田	30	28	29	40	26	25	11	11	11	4	4	3
本 楯	48	47	39	60	57	34	9	9	9	2	2	2
南遊佐	29	42	44	44	51	49	9	10	10	2	2	2
小 計	2,125	2,099	1994	2,125	2,099	1452	280	274	281	50	51	54
一 條	54	52	42	57	28	26	31	28	30	2	2	2
観音寺	79	78	67	83	57	51	58	57	54	2	3	2
大 沢	41	38	30	43	20	16	22	20	19	3	3	3
日 向	53	60	41	64	37	27	34	37	37	5	7	6
小 計	227	228	180	247	142	120	145	142	140	12	14	13
南 部	15	17	17	21	26	25	5	7	7	2	2	2
山 寺	4	4	5	9	9	9	2	2	2	2	2	2
松 嶺	97	105	105	154	134	128	13	13	13	2	2	2
内 郷	57	60	62	99	92	95	12	12	12	2	2	2
小 計	173	186	189	283	261	257	32	34	34	8	8	8
田 沢	44	43	59	48	28	27	7	7	7	2	2	2
東 陽	160	160	189	87	54	64	14	14	14	3	3	3
郡鏡・山谷	30	27	25	8	19	20	14	15	15	2	2	2
南平田	109	92	101	0	14	14	14	14	21	1	1	2
砂越・砂越緑町	116	116	117	155	37	38	3	3	3	2	2	2
小 計	459	438	491	298	152	163	52	60	60	10	10	11
合 計	2,984	2,951	2854	2,727	2,116	1992	509	510	515	80	83	86

学区地区 社 協	合同研修			ふれあい給食						地域交流		
	延人数			回 数			延人数			回 数		
	H24	H25	H26	H24	H25	H26	H24	H25	H26	H24	H25	H26
琢 成	123	133	128	8	8	8	619	655	675	78	89	113
浜 田	240	214	223	15	13	14	780	821	883	11	11	9
若 浜	95	80	92	10	10	10	495	463	465	104	80	161
富士見	104	89	98	6	6	6	266	277	255	20	26	27
亀 城	84	87	234	6	6	7	413	430	492	14	14	14
松 原	128	123	118	7	7	7	204	197	194	18	20	20
港 南	66	62	62	6	6	6	714	709	638	10	10	10
松 陵	77	81	80	10	11	11	351	401	349	12	12	12
泉	66	70	73	9	9	9	99	97	117	10	10	10
宮野浦	83	72	82	6	6	6	240	205	206	11	10	10
飛 島	25	24	27	3	3	3	58	63	77	18	15	19
西荒瀬	61	59	57	7	7	7	196	178	257	100	67	40
新 堀	54	55	50	6	6	6	234	234	234	24	23	18
広 野	60	62	68	6	6	6	74	79	85	6	6	6
浜 中	33	86	25	2	2	2	40	39	60	10	10	10
黒 森	38	36	36	2	2	2	41	41	40	14	14	14
十 坂	50	48	49	4	4	4	127	122	120	11	11	11
東平田	34	60	52	5	5	5	97	105	89	42	64	74
中平田	60	60	60	6	12	6	50	108	54	15	15	48
北平田	42	43	45	5	5	5	70	79	87	16	18	17
上 田	59	53	45	6	6	5	79	78	71	18	19	16
本 楯	60	62	67	6	6	6	134	138	154	12	12	12
南遊佐	57	68	69	5	5	5	100	100	100	10	10	10
小 計	1,699	1,727	1,840	146	151	146	5,481	5,619	5,702	584	566	681
一 條	41	60	65	2	2	2	141	130	136	88	70	81
観音寺	57	60	55	2	3	3	134	137	190	88	72	78
大 沢	42	51	85	2	1	2	75	120	83	57	25	54
日 向	160	203	236	2	2	3	95	77	116	34	37	41
小 計	300	374	441	8	8	10	445	464	525	267	204	254
南 部	41	41	34	6	6	6	120	65	66	8	10	12
山 寺	34	25	27	6	6	6	61	47	53	15	11	10
松 嶺	50	49	47	6	6	6	197	153	211	13	11	14
内 郷	49	49	43	6	6	6	68	59	50	10	11	10
小 計	174	164	151	24	24	24	446	324	380	46	43	46
田 沢	38	29	37	2	2	2	47	45	83	39	35	49
東 陽	60	73	73	2	6	3	51	75	75	93	101	129
郡鏡・山谷	26	30	36	2	2	2	37	35	36	122	135	132
南平田	14	17	40	2	2	2	37	32	41	11	18	21
砂越・砂越緑町	40	57	53	3	2	2	75	71	63	127	67	93
小 計	178	206	239	11	11	11	247	258	298	392	356	424
合 計	2,351	2,471	2,671	189	194	191	6,619	6,665	6,905	1,289	1,169	1,405

学区地区 社 協	地域交流			地域あんしん			介護予防					
	延人数			回 数			回 数			延人数		
	H24	H25	H26	H24	H25	H26	H24	H25	H26	H24	H25	H26
琢 成	1,619	1,715	1,969	24	30	30	8	8	8	326	377	354
浜 田	415	462	583	26	26	26	8	8	8	325	323	376
若 浜	1,633	1,048	1,133	24	24	22	8	8	8	326	289	348
富士見	439	568	544	24	24	144	8	8	8	231	280	316
亀 城	358	390	520	24	28	28	9	9	9	360	441	427
松 原	498	552	617	24	24	31	9	10	12	361	436	582
港 南	241	233	213	24	24	44	8	8	8	197	234	171
松 陵	288	361	358	24	24	24	8	8	8	369	429	530
泉	1,270	1,335	1,285	24	24	24	6	6	6	226	244	297
宮野浦	348	311	359	24	24	24	8	8	8	253	224	226
飛 島	439	257	458	24	24	15	6	6	6	192	251	189
西荒瀬	957	1086	290	24	24	24	8	7	7	193	163	169
新 堀	136	135	171	24	24	24	10	10	10	262	267	318
広 野	649	425	430	24	24	24	8	8	8	521	508	546
浜 中	190	182	172	24	24	24	7	7	7	142	144	146
黒 森	1,919	1,827	1,850	24	24	24	8	8	8	295	300	338
十 坂	981	988	972	24	24	24	8	8	8	393	454	405
東平田	744	711	1028	24	24	24	6	6	6	123	111	143
中平田	171	183	1614	24	24	24	6	6	6	108	136	182
北平田	465	425	565	24	24	24	6	6	6	141	128	142
上 田	111	236	334	24	24	24	9	9	9	174	175	174
本 楯	971	758	758	24	24	24	8	8	10	163	187	215
南遊佐	135	140	140	24	24	24	6	6	6	173	181	193
小 計	14,977	14,328	16,363	554	564	700	176	176	180	5,854	6,282	6,787
一 條	2,280	1,022	1,521	24	24	24	6	6	6	232	254	294
観音寺	1,273	1,135	1,194	24	24	24	6	6	6	220	214	229
大 沢	612	299	694	24	24	24	6	6	6	105	162	160
日 向	443	455	445	24	24	24	6	6	6	137	133	169
小 計	4,608	2,911	3,854	96	96	96	24	24	24	694	763	852
南 部	229	384	404	24	24	12	6	6	6	221	231	271
山 寺	465	323	291	24	24	12	6	6	6	71	102	78
松 嶺	347	324	361	24	24	12	6	6	6	161	167	175
内 郷	348	336	305	24	24	12	6	6	6	151	173	167
小 計	1,389	1,367	1,361	96	96	48	24	24	24	604	673	691
田 沢	445	400	593	24	24	24	6	6	6	100	150	163
東 陽	917	944	1115	24	24	24	6	6	7	182	211	236
郡鏡・山谷	1,238	1,277	1,494	24	24	24	6	6	6	217	194	230
南平田	172	332	293	24	24	24	6	6	6	144	144	194
砂越・砂越緑町	2,402	1,653	1,733	24	24	24	6	6	6	237	286	264
小 計	5,174	4,606	5,228	120	12	120	30	30	31	880	985	1,087
合 計	26,148	23,212	26,806	866	876	964	254	254	259	8,032	8,703	9,417

5. 酒田市地域福祉計画策定に関する懇話会委員名簿

(敬称略：50音順)

No.	委員名	推薦団体等
1	阿部 貴志	酒田市地域包括支援センター長会
2	阿部 直善	酒田市社会福祉協議会
3	尾形 キエ	公募委員
4	伊賀 武	酒田市ボランティア連絡協議会
5	池田 彦為	酒田市手をつなぐ育成会
6	佐藤 俊男	酒田市自治会連合会
7	清水 博雄	酒田市地区自治会連合会
8	須田 文男	酒田市子ども会育成連合会
9	○高橋 陽一	酒田市民生委員・児童委員協議会連合会
10	武田 正三	酒田市老人クラブ連合会
11	◎武田 真理子	東北公益文科大学
12	森谷 功喜	公募委員
13	和根崎 勘一	酒田市平田自治会長会

◎会長 ○副会長

6. 酒田市地域福祉計画策定に関する会議の開催状況

酒田市地域福祉計画策定に関する懇話会

第1回懇話会 平成27年 8月 6日

第2回懇話会 平成27年12月 8日

第3回懇話会 平成28年 2月 9日

酒田市地域福祉計画策定委員会

第1回委員会 平成27年11月18日

第2回委員会 平成28年 1月19日

7. 酒田市地域福祉活動計画策定委員名簿

(敬称略：50音順)

No.	氏名	役職名
1	○天保壽保	酒田市社会福祉協議会 評議員 地域福祉・ボランティア部会 部会長
2	◎阿部直善	酒田市社会福祉協議会 理事 会長
3	石川完	酒田市社会福祉協議会 理事 介護保険部会 副部会長
4	小田和夫	酒田市社会福祉協議会 理事 副会長
5	片桐晃子	酒田市社会福祉協議会 理事 地域福祉・ボランティア部会 副部会長
6	木村孝子	酒田市社会福祉協議会 評議員 総務財政部会 副部会長
7	小松満	酒田市社会福祉協議会 理事 介護保険部会 部会長
8	佐藤力	酒田市社会福祉協議会 理事 副会長
9	佐藤恒	酒田市社会福祉協議会 理事 副会長
10	高橋陽一	酒田市社会福祉協議会 理事 共同募金部会 副部会長
11	武内重昭	酒田市社会福祉協議会 理事 副会長
12	戸田登	酒田市社会福祉協議会 理事 共同募金部会 部会長
13	本間宏	酒田市社会福祉協議会 評議員 総務財政部会 部会長

◎委員長 ○副委員長

8. 酒田市地域福祉活動計画策定委員会の開催状況

酒田市地域福祉活動計画策定委員会

第1回委員会 平成27年 8月25日

第2回委員会 平成27年12月10日

第3回委員会 平成28年 2月10日